

## V スギル構文の解釈の統語的決定

九州大学人文科学研究院専門研究員 東寺祐亮

## 1. 問題提起

動詞の連用形にスギを付けると、何らかの過剰性を表す解釈になる。以降、このような構文を V スギル構文と呼ぶことにする<sup>1</sup>。(1a)は、動作の何らかの程度が過剰であるという解釈になるが、(1b)の「丁寧に読みすぎ」は「丁寧すぎ」という解釈になる。

- (1) a. 健は、論文を読みすぎて、すっかり疲れ果ててしまった。＝読みすぎ  
b. 健は、論文を丁寧に読みすぎて、1つしか読めなかった。＝丁寧すぎ

(1a)の解釈の場合の「読む」というイベントは、(2a)のような property の集合を持っており、(1b)の「読む」というイベントは(2b)のような property の集合を持つ。

- (2) a. (1a)の「読む」というイベントの property  
{<Kind, 読む>, <Agent, ...>, <Theme, ...>, <Time, perfect>, <量, 過剰>}  
b. (1b)の「読む」というイベントの property  
{<Kind, 読む>, <Agent, ...>, <Theme, ...>, <Time, perfect>, <丁寧に, 過剰>}

(1a)も(1b)も「読む」というイベントについてであるが、「量」の property について過剰なのか、「丁寧に」の property について過剰なのかという点に違いがある。つまり、V スギル構文の解釈は、過剰の意味をどの property が持っているのかによって異なる。

また、(3)に示すように、V スギル構文では、必ずしもイベントが過剰の解釈に関わるとは限らない。過剰の解釈はヲ格名詞句にまで及ぶ場合がある（由本 2005）。

- (3) 健は、難しい論文を読みすぎて、内容がよく理解できなかった。＝論文が難しすぎ

(1)は「読む」というイベントに過剰の意味が付与されていたが、(3)では、「論文」というモノに過剰の意味が付与されている。

- (4) (3)の「論文」の property  
{<Kind, 論文>, <難しい, 過剰>}

つまり、V スギル構文の解釈は、過剰の意味を持つ property をどのモノ／コトを表す語が持っているかによっても異なるということである。本発表では、解釈の決定に統語論が関わっていると考えている。本発表では、それがどのようにして決まるのかということを考察する。

<sup>1</sup> V スギルの研究においては、英語の「over-V」と V スギルを比較している Sugioka (1986)、モジュール形態論の観点から分析している影山・由本 (1997) と由本 (2005)、意味論の観点から英語の「too」の denotation を基にしてスギルの denotation を提案している Nakanishi (2004) などが挙げられる。(3)の観察が指摘されたのは、管見の限り、影山・由本 (1997) が初めである。(3)の現象を詳述し、解釈決定に統語構造が関わることを指摘した由本 (2005) について、後ほど詳しく紹介する。

統語論でどの解釈になるかが決められているかを示す事実として、(5)のように埋め込まれると「論文が難しすぎ」という解釈は容認されなくなることがある。

- (5) a. あの学部生は、難しい論文を読みすぎた。＝論文が難しすぎ  
 b. [[ 難しい論文を読んだ ] 学部生 ] がはりきりすぎて、発表に失敗した。≠論文が難しすぎ

このような V スギル構文の解釈はどのようにして派生されるのだろうか。

## 2. property に着目した分析

### 2.1. 由本 (2005) の分析

由本 (2005) は、過剰の意味をどの property が持っているのかという点に着目し、property を表す語の構造的な位置が解釈の容認可能性を決定するという分析を提案している。

由本 (2005) が、スギが統語的に [+gradable] 素性を選択すると分析しているのは、(6)の動詞修飾部や(7)のヲ格名詞句修飾部について過剰の解釈が容認可能である一方、(7)のガ格名詞句修飾部や(8)のように [+gradable] 素性が深く埋め込まれている場合には過剰の解釈が容認不可能であると観察しているためである。

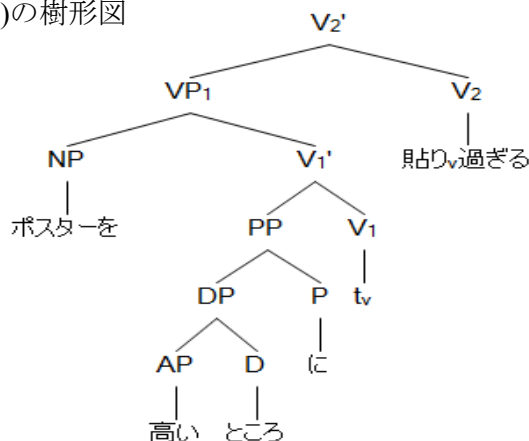
- (6) a. 彼は早く ([+gradable] 素性) 家を建て過ぎたと後悔した。(＝家を建てたのが早すぎた)  
 (由本 2005: 242, (44a))  
 b. 彼は大きな ([+gradable] 素性) 家を建て過ぎたと後悔した。(＝建てた家が大きすぎた)  
 (由本 2005: 242, (45b))  
 (7) この公園ではうるさい子供が遊び過ぎる。(≠子供がうるさすぎる)(由本 2005: 230, (18c))  
 (8) 健は [CP [IP 子供がよく勉強する ] と ] 言い過ぎた。(≠健は子供がよく勉強しすぎると言った)  
 (由本 2005: 259, (66a))  
 (9) 「過ぎる」は統語構造内において統率する要素の中から [+gradable] 素性を探し、それをターゲットとして選択する。  
 (由本 2005: 264, (75))

ただし、由本 (2005) は、(10)の「高い」のように、直接スギルに統率されていない要素でも選択が可能な場合があるため、

(12)の「[+gradable] 素性の浸透」という仮定を加えている。

- (10) ポスターを高いところに貼りすぎて、見えないよ。(＝貼ったところが高すぎる)  
 (由本 2005: 261, (70a))

(11) (10)の樹形図



- (12) [+gradable] 素性はそれを直接支配する DP とさらにその DP を直接支配する PP まで浸透する。  
(由本 2005: 263-264)

## 2.2. property に着目した分析の問題点

由本 (2005) の分析は、property を表す語の構造的位置に着目する分析である。しかし、property を表す語の構造的位置に着目すると問題となる例がさまざまある。たとえば、(13)は、(8)と同様に property を表す語が深く埋め込まれているにもかかわらず、容認可能である。

- (13) a. 健は、まだ M1 なのに、[[ ややこしく書かれた ] 論文 ] を読みすぎて、少しも勉強にならなかった。  
b. (近頃、美術界ではいろいろな色を使った絵が流行っているので、花子は普通の 3 倍近くの色を使った絵を描いてみたら、さすがに評判が悪かった)  
花子は、[[ いろいろな色を使った ] 絵 ] を描きすぎて、さすがに評判が悪かった。

また、極端な例を考えると、(14)は property が 1 つの単語としては存在せず、複数の語と組み合わせられて作られる。

- (14) a. (学部生の授業であまりにわかりにくい論文を選ぶと学生がついてこれなくなる。)  
? 学部生の授業なのに、田中先生が [[ わかりやすく書かれていない ] 論文 ] を選びすぎて、学部生が授業についていけなかった。  
b. ? 皆はパーティーだから明るい色のドレスを着ていたのに、花子は [[ 色が明るくない ] ドレス ] を着すぎたせいで、目立てなかった。

(14)の解釈で何が過剰なのかと言うと「わかりやすくなさ(わかりにくさ)」である。つまり、(14)ではスギの過剰の意味を与えられる property が連体修飾節全体で複合的に生み出されていることになり、このような事実は、スギが過剰の意味を付与する property を特定の語彙項目が表すという仮定に基づく分析では説明できない。

以上より、V スギル構文の解釈可能性が property を表す語の位置で決まっているとは考えづらい。

## 3. 過剰の意味を持つモノ／コトに着目した分析

### 3.1. 分析

過剰の意味と結びつく property が解釈可能性を決定しているとは考えづらいが、(5)に示すように深く埋め込まれると「難しすぎ」という解釈ができなくなるため、いずれかで統語構造が関連しているはずである。本発表では、過剰の意味をどのモノ／コトを表す語が持つかが統語構造によって決定されていると考えてみる。そして、過剰の意味を付与されたモノ／コトにおいて、どの property と過剰の意味が結びつくかは post syntactic に決まると考える。

- (5) a. あの学部生は、難しい論文を読みすぎた。＝論文が難しすぎ  
b. [[ 難しい論文を読んだ ] 学部生 ] がはりきりすぎて、発表に失敗した。≠論文が難しすぎ

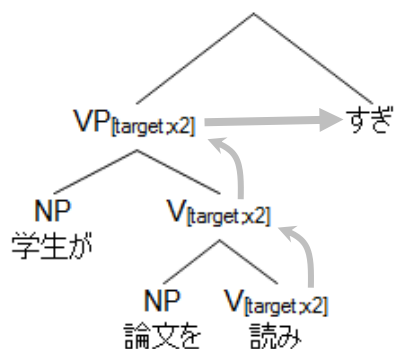
1 節の(2)で、「買う」というコトと「帽子」というモノの property の集合を示したが、モノ／コトを表す語は Numeration において指標番号と対応していると考えたい。(2)と(4)に反映させると(15)のように表される。

- (15) a. (2a)  
 <x2, {<Kind, 読む>,<Agent, ...>,<Theme, ...>,<Time, perfect>,<量, 過剰>}>  
 b. (2b)  
 <x2, {<Kind, 読む>,<Agent, ...>,<Theme, ...>,<Time, perfect>,<丁寧に, 過剰>}>  
 c. (4)  
 <x3, {<Kind, 論文>,<難しい, 過剰>}>

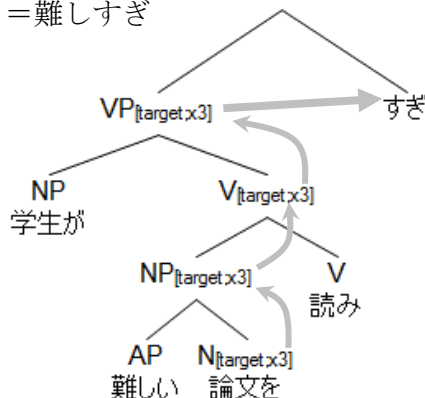
このように「読む」や「論文」のようなモノ／コトは、Numerationにおいて指標と対応するが、スギはこの指標番号との対応を持たず、構造構築によってその指標番号を得ると考えたい。そして、その指標番号を決定するものとして、[target] 素性を仮定する。[target] 素性とは、モノ／コトが持つことがある素性で、モノ／コトに付与されると、その指標番号を得て、継承される素性である。スギは [target] 素性を持つ相手と Mergeすると、その指標番号を得る。

たとえば、(16a)は「読む」に [target] 素性が付与された場合である。(16b)は「論文」に [target] 素性が付与された場合である。

- (16) a. 学生が論文を読み [target ; x2] すぎた  
 =読みすぎ



- b. 学生が難しい論文 [target ; x3] を読みすぎた  
 =難しすぎ



(16a)で [target] 素性が x2 という素性ととともに継承され、スギと Merge することで、スギの表示は x2 についての property を示す(17a)になる。また、(16b)では、[target] 素性が x3 という素性ととともに継承され、スギと Merge することで、スギの表示は x3 についての property を示す(17b)になる。

- (17) a. (16a)のスギ  
 <x2, {<..., sugi>}>  
 b. (16b)のスギ  
 <x3, {<..., sugi>}>

(17a)と「読む」がもともと持つ(18a)が組み合わせられることで(19a)が派生される。また、(17b)と「論文」がもともと持つ(18b)が組み合わせられることで、(19)が派生される。

- (18) a. 読む x2  
 <x2, {<Kind, 読む>,<Agent, ...>,<Theme, ...>,<Time, perfect>,<量, ...>}>  
 b. 論文 x3  
 <x3, {<Kind, 論文>,<難しい, ...>}>

- (19) a. (17a)+(18a)  
 <x2, {<Kind, 読む>, <Agent, ...>, <Theme, ...>, <Time, perfect>, <量, ...>, <..., 過剰>}>  
 b. (17b)+(18b)  
 <x3, {<Kind, 論文>, <難しい, ...>, <..., 過剰>}>

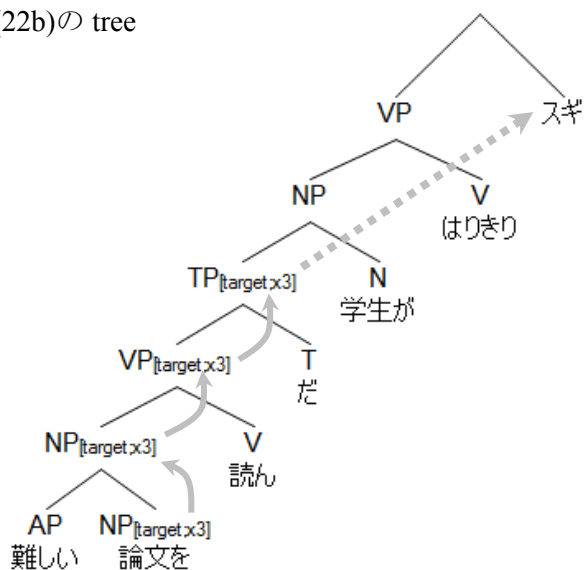
### 3.2. 構造条件

V スギル構文では、(20)のように動詞以外にも過剰性を述べることができる。一方、(21)のようにモノ／コトを表す語が連体修飾節内に含まれる場合は、容認されない。

- (20) a. 健は論文を丁寧に読みすぎた。＝読み方が丁寧すぎ  
b. 田中先生は（学部生対象の授業なのにあまりに）難しい課題論文を選びすぎた。＝選んだ課題論文が難しすぎ  
c. 花子は（1曲しか歌ってないのにあまりに）大きな声で歌いすぎて、喉がガラガラになった。＝声が大きすぎ  
d. （普通のサイズの人が2人乗ることができるゴンドラなのにあまりに）体の大きな人が乗りすぎたせいで、1人しか乗れなかった。＝乗った人の体が大きすぎ
- (21) a. [[ 派手な帽子を買った ] 女の子 ] がお金を使いすぎて、後悔していた。≠帽子が派手すぎ  
b. [[ 体の大きな人が乗った ] ゴンドラ ] を揺らしすぎた。≠人の体が大きすぎた

過剰の解釈ができないということは、スギが [target] 素性を持つ相手と Merge できていないということである。つまり、[target] 素性の継承が連体修飾節に阻まれたことにより、スギと [target] 素性が巡り合うことができず、「論文」に過剰の意味を付与できないと考えることができる。この制限は(23)に言い換えることができる。

- (22) a. 学生が難しい論文 [target; x3] を読みすぎた。  
b. [NP [TP [VP 難しい論文 [target; x3] を読ん ] だ ] 学生 ] がはりきりすぎた。  
(23) [target] 素性は TP を越えて継承されない。  
(24) (22b)の tree



(13)や(14)が容認されうるのは、(25a,b)に示すように、「論文」が [target] 素性を持っているためである。

- (25) a. 健は、まだ M1 なのに、[[ ややこしく書かれた ] 論文 <sub>[target ; x3]</sub> ] を読みすぎて、何も勉強にならなかった。  
b. 学部生の授業なのに、田中先生が [[ わかりやすく書かれていない ] 論文 <sub>[target ; x3]</sub> ] を選びすぎて、受講生の半数しか単位が取れなかった。

「論文」が [target] 素性を持つ場合は継承が阻害されず、「論文」が持つ property について過剰であるという解釈が可能になるのである。

#### 4. おわりに

日本語では、明らかに sister 関係にない要素同士が解釈上強い関わりを持つことがある。本発表では、V スギル構文において、構造的に決まっているのは、過剰の意味がどのモノ／コトに付与されるのかまでであるということを提案した。従来、property が関わる表現については、property の構造的な位置が問題視されてきた。しかし、property は、過剰解釈に必要不可欠な情報であるにも関わらず、複数の語の合成から作られることもあり、その決定が構造構築段階で行われるとは考えづらい。

sister 関係にない要素同士が解釈上強い関わりを持つ構文は、他にも比較相関構文が挙げられる。本発表で仮定した [target] 素性は、比較相関構文の文を分析するにあたっても有用である。ダケ、ブンなど、他の property が関わる表現にどのように関わるのかは今後の課題である。

#### 参考文献

- 影山太郎・由本陽子 (1997) 『日英語比較選書—⑧ 語形成と概念構造』中右実 (編) , 東京: 研究社出版.
- Nakanishi, Kimiko (2004) On comparative quantification in the verbal domain. Proceedings of the 14th Semantics and Linguistic Theory Conference 14 : 179–196.
- Sugioka, Yoko (1986) Interaction of derivational morphology and syntax in Japanese and English. New York: Garland.
- 上山あゆみ (2015) 『統語意味論』 名古屋: 名古屋大学出版会.
- 由本陽子 (2005) 『複合動詞・派生動詞の意味と統語—モジュール形態論から見た日英語の動詞形成』 東京: ひつじ書房.